

美容の世界で生きていく

学生時代までは、美容とは無縁の生活を送っており、スポーツに力を入れる日々でした。体育系大学の学生だった私を、美容の道に導いてくれたのは同じ部活の先輩です。

一緒にマネージャーをしていた先輩は、とても綺麗でみんなの憧れの存在でした。そんな先輩が、卒業後に脱毛サロンへ就職したんです。そのとき「脱毛サロンに就職すれば、先輩みたいに綺麗になれるんだ！」と思ったのを覚えていて。「人生で一度くらい、働いていると美意識が上がり、自分も綺麗になれるような職を経験してみたい」と、関東の大手脱毛サロンに就職しました。

今考えると、すごく楽観的ですよ。入社したはいいものの、もともと美容に興味があるほうではなかったなので、美容の知識を覚えるのに苦戦しました。最初は「好き」という気持ちより、「仕事だから」という感覚で働いていましたね。ですがそうしているうちに、お客様から感謝や喜びの声をいただくことが増え、やりがいを感じられるようになりました。

最初の脱毛サロンでは、ご縁があつて店長として働いていたんです。スタッフの年齢層も低かったため、23歳という若さで就任。社会人としてはまだまだ未熟ながらも貴重な経験ができ、さらなるやりがいを得られました。

店長という役職を通して、最も学びになったのは人との関わり方です。さまざまな業務の中でも、新人スタッフの指導やステップアップの育成がとて大変で。スタッフの中には、自分とは考え方が異なる方もたくさんいます。ときにぶつかり合いながら、考えの違いを受け入れるまでに時間がかかりました。

どうにもうまくいかず、立ち止まって原因を考えてみると、伝えることに重きを置き過ぎていると気づいたんです。私が10割話してしまうから、相手は何も言えないのだと。それからは、一方的に伝えるだけでなく、まずは聞き役になって相手を知ることから始めました。

たとえば、モチベーションが上がらないスタッフがいたら、本人が「燃えるポイントと一緒に探してみるんです。お給料や次の休日のため、誰かに褒められるため、仲のいいスタッフに会いたいため……。何でもいいので、そのポイントを見つけて一緒に頑張っていきました。やり方をひとつ変えると、次第に「林下さんと一緒に働きたいから出勤します！」と言ってもらえることも増えてきて、本当に嬉しかったですね。

人との関わり方は、エステティシャンとしてお客様と関わるうえでも活きています。カウンセリングや施術中など、お話しする場面がとて多い中で、やはり自分が聞き手に回ることを大切にしています。お悩みの本質的な部分までお話いただくと、お客様の「綺麗になりたい」という想いにも全力で応えられるんです。

今まで、結婚・出産を機にエステを離れたこともありましたが、家庭を支えるために定年まで安定して働こうと、保険会社の営業に就職したんです。でもやっぱり、エステへの気持ち拭ききれなくて。人と接するという意味では、営業の仕事も同じ。ただ「お客様がより綺麗になるお手伝いができる」というやりがいや、自分自身も美意識を磨けて綺麗になれる環境は、エステでしか得られないことです。異業種を経験してみて、改めてエステサロンで働きたいと強く思えました。

子育てママとして家庭のことはもちろん、仕事のやりがいも大事。わがままかもしれませんが、うまくバランスをとってやっていきたいです。これからも、どんな形であれ美容に携わる仕事を続けて生きていきます。



The Philosophy of Yumezukuri Tohoku

人生に『夢』づくり、ゆめ溢れる『人』づくり

Chisato Hayashishita